

江戸時代に普及 元旦に飲む薬酒

Q お屠蘇（とそ）は漢方薬と聞きましたが、い
われや内容、効能・効果を教えてください。

A 元旦（がたん）にお屠蘇を飲む風習は今
日広く行われている。屠蘇酒は中国の六朝時代
（三―七世紀）に始まり、唐代（七―一〇世紀）
に定着した保健習慣といわれる。わが国でも現
存最古の医学書『医心方』（九八四年）に既に

記載がみられ、平安時代の前期から宮中の元旦
の儀式に採用され、江戸時代には一般に普及し
たとされる。

元来の記載によれば、屠蘇散を赤い布に包み、
大みそかの昼に井戸の中につるし、元旦の暁に
取り出し、温酒にひたしたものを年少の者から
順番に服用し、正月三日が明けたらまたこれを

井戸の中にもどすなどと記されている。井戸水
の浄化や一家の無病息災を願ったもので、一家
で飲めば周囲一里に疫病が起きないなど、儀礼
的色彩が濃い。元来の生薬構成は大黃（だいお
う）・烏頭（うず）といった作用の強い生薬を含
む処方であった。後世、種々の変法の屠蘇酒が
作られ、今日、新しい年の健康を祈って元旦に
飲む薬酒となっている。

当研究所では飲みやすく今風にアレンジした
「北里屠蘇散」を作つて、この時期、患者さん
にお渡ししている。香りがよく消化を助け、か
ぜの予防になるような生薬構成にしている。大
みそかの夜に約二〇〇mlの清酒または味醂（み
りん）にひたして飲み、家族全員で一年の無病
息災を祈る、と説明している。